

責任投資： 方針と原則

フランクリン・テンプレトン（FT）における責任投資（RI）とは、ポートフォリオ運用における長期的なリスク調整後のリターンを向上させるために、環境・社会・ガバナンス（ESG）要因を投資プロセスにおいて考慮することを意味します。FTの責任投資方針と原則では、運用プロセスにおいてESGの視点を取り入れるにあたっての考え方の概要を説明しています。

ESG要因は、企業や証券の価値に大きな影響を及ぼす可能性があります。ESG要因の例としては、天然資源の利用状況、ガバナンス（統制）、製品の安全性、従業員の健康管理・安全対策、株主権利に関わる問題などが挙げられます。FTでは、投資対象の価値、リスクおよびリターンについて、より包括的な見通しを得るためには、従来の財務情報の分析とあわせて、これらESG要因を考慮することが必要であると考えています。この考え方にに基づき、運用プロセスにおける調査分析およびリスク管理や、株主としての行動において、ESGの視点を取り入れています。

FTの責任投資方針と原則は、FT内のすべての運用グループに適用されています。一方、各運用グループは、それぞれの運用アプローチに応じて柔軟にESG要因を考慮しており、各運用担当者は、各戦略における運用哲学に沿う形で、投資判断にESGを組み入れています。なお、FTでは、「武器製造企業を投資対象から除外する方針」を除き、各運用グループに共通して適用される制約や義務はありません。

FTでは、専任のESGチームが、各運用部門ヘッドや最高投資責任者（CIO）と協働して、責任投資方針への準拠および監督に関する責任を有しています。運用担当者とアナリストはその方針に従って、運用業務を展開しています。

ESGチームは、運用チームと緊密に協働し、ESGの研修、既存の運用プロセスの評価、調査手法・ツール、モニタリング機能の強化などを通じて、運用プロセスにおいてESG要因がより効果的に反映されるよう努力しています。ESGチームは、ESGに関する事項につき、フランクリン・テンプレトン・マルチアセット・ソリューションズの最高投資責任者（CIO）を通じて、フランクリン・リソース・エグゼクティブ・コミティのメンバーであるFTの社長に直接報告しています。

エグゼクティブ・コミティは、最高経営責任者（CEO）、社長、運用部門や営業部門のシニア・メンバー等で構成されており、FT全体の企業戦略を策定しています。

目次

1. 運用プロセスにおけるESG要因の考慮

1.1. アプローチと取り組み

1.2. 運用プロセスにおけるESG

- A. 調査・分析
- B. ポートフォリオ構築・管理
- C. リスク管理

1.3. 積極的な株主行動

- i. 議決権行使
- ii. エンゲージメント活動
- iii. エンゲージメント活動における協働

2. リサーチと情報源

3. ガバナンス

4. メンバーシップおよび加盟機関

5. 社会的責任投資（SRI）

6. テーマ型投資

7. インパクト投資

8. 武器製造企業への投資除外

9. 関連文書

1. 運用プロセスにおけるESG要因の考慮

1.1. アプローチと取り組み

世界的に企業を取り巻く事業環境が複雑になる中、企業は自社の事業目標と利害関係者からの期待との調和を図っています。このような状況のなか、環境・社会・ガバナンス（ESG）要因の重要性が増えています。利害関係者との関係を効果的に維持できる企業は、リスク管理や成長機会の獲得を通じ、長期的に成功する可能性が高いという点で、他社より優位なポジションにあると考えます。

グローバルな資産運用会社であるFTは、70年以上の豊富な実績を持つ運用機関として、グループ全体でESG要因がもたらす投資機会とリスクの分析に積極的に取り組んでいます。責任投資の方針と原則は、ESG専任チームとリスク管理部門のインベストメント・リスク・マネージメント・グループによって長年行われてきたESGへの取り組みを改めて確認するものとなっています。

ESGアプローチの主な原則：

- **常に最優先される顧客の投資目標・目的：**
FTでは、ESG要因がポートフォリオのリスク・リターンに影響を与えるとの考えに基づき、リサーチや投資判断において、お客様および戦略の投資目標・目的に沿って、ESG要因を考慮することに努めています。
- **独立した運用グループによる独自の運用プロセス：**
FTでは、十分に分散されたポートフォリオをお客様に提供するために、各運用グループは独立した運用を行っています。従って、各運用グループの特徴に応じ、ESGに関連するリスクを含むポートフォリオリスクの分析や管理が行われています。

- **インベストメント・リスク・マネージメント・グループ（IRMG）と連携し、ポートフォリオ・マネージャーが主導：**
IRMGは、運用リスク管理を運用プロセスのなかに取り入れるというミッションの下、運用プロセスの様々な段階において、ESGに関連するリスクが意図されたものとして認識されるよう努めています。

ESG要因を考慮することは、アナリストが行うファンダメンタルズに基づくボトムアップ・リサーチにおける重要な要素です。ESG専任チームはこのリサーチ業務を支援するため、適宜、ESGに関する補足的なデータの提供や分析、研修の実施、プロセスや資料の充実などを手掛けています。

またESGチームやIRMGのサポートにより、ポートフォリオ・マネージャーは、各運用におけるESGに関連する潜在的なリスク・リターンを、より詳細に、かつ包括的に理解することができます。

1.2 運用プロセスにおけるESG

FTのESG要因を十分に取り入れたESGアプローチは、運用リサーチやリスク管理で活用されています。このアプローチは各運用グループで横断的に共有されていますが、各運用グループの運用スタイルに応じた柔軟な運営が行われています：



A. 調査・分析

運用プロセスにおけるESG分析は、アナリストがファンダメンタルズ・リサーチの一環として、ESGに関連するリスクと投資機会を検討することから始まります。ESGを運用の中に効果的に取り入れる方法として、FTではリサーチの段階からESG要因を考慮しています。運用グループはそれぞれ独立しているため、各運用担当者は、投資判断において、どのリサーチ情報を、どれくらい重視するかについて独自に決定しています。ファンダメンタルズに基づくボトムアップ重視の運用会社であるFTでは、各リサーチは主に社内の運用プロフェッショナルによって行われています。

B. ポートフォリオ構築・管理

FTでは、責任投資の方針と原則をリサーチ活動においてだけでなく、ポートフォリオの構築および管理においても実践するよう努めています。

各運用担当者は、投資判断において用いられるリサーチ情報やその考慮の割合を決定します。アナリストは担当する証券の分析において、関連する重要なESG要因をモニタリングする責任も担っています。継続的にモニタリングを行うことで、ESG要因に関する洞察をリサーチレポートや銘柄推奨に反映させています。その内容はポートフォリオ構築における投資意思決定の際に、運用チームと議論されます。

C. リスク管理

FTでは、IRMGによる既存のリスク管理プロセスにもESGの視点を組み入れるよう努めています。ESG専任チームが、IRMGのリスクコンサルタントと協働し、業界トップレベルのツールを活用しながら、ESG要因に関するトップダウンおよびポートフォリオごとの分析を提供します。ポートフォリオのパフォーマンスおよびリスク分析や、ポートフォリオ・マネージャーとの議論においてもESG分析を取り入れており、リスク分析の中においてESG関連リスクが一つの重要な視点となるよう努めています。

1.3. 積極的な株主行動

FTは、投資戦略にかかわらず株主行動を積極的に行っており、運用プロフェッショナルが会社経営陣との対話、アドバイザーボード（諮問委員会）への参加、議決権行使（顧客にその権限を与えられた場合）などの活動に従事しています。

i. 議決権行使

FTの運用担当者は、これまでの経験に基づき、議決権行使が株主価値に影響を及ぼす可能性があることを理解しており、お客様の最善の利益を考えて議決権を行使することで受託者責任を果たすよう努めています。

議決権行使の方針と判断基準は、議決権行使判断におけるガイドラインとなっており、ESG関連の議案も含む議決権行使の決定プロセスを詳細に規定しています。

議決権行使にあたっては、外部機関によるコーポレート・ガバナンスについてのアドバイスも活用しています。現在FTは、インスティテューショナル・シェアホルダー・サービスズ（ISS）社、グラス・ルイス社およびオーナーシップ・マターズ社といった外部機関の議決権行使に関する分析を活用しています。通常、FTはお客様の長期的な利益につながるESG関連の決議を支持する方向で検討しますが、日常的な業務運営について関与は行いません。

お客様への透明性を確保するため、議決権行使に関する方針と行使の記録を、法令に基づき要求されている範囲で一部の国において公開しています。詳細に関しては、フランクリン・テンプレトンの国別ウェブサイトの議決権行使の項目をご参照ください。

ii. エンゲージメント活動

FTの運用担当者とアナリストは、投資先企業の幹部や、必要に応じて役員と定期的に対話し、その企業の長期的な成長に重要と考えられる課題について意見交換を行っています。FTは、世界各国に配置されている600名超の運用プロフェッショナルを通じて、各企業とのコンタクトを行っています。彼らは、自身の担当する企業の投資判断に重要な影響を与えると考えられる情報などを含めレポートを作成しています。

経営陣とのミーティングはFTのリサーチ・プロセスで重要な役割を果たしています。この対話を通じて、FTのポートフォリオ・マネージャーやアナリストは、当該企業の事業計画やその進捗状況を理解・評価し、足元の短期的な計画だけでなく長期的な企業戦略を見極めることに努めています。経営陣の長期的な戦略的思考を真に理解し、一般的な財務分析で行う以上の詳細な企業の分析・精査に尽力しています。対話のテーマは、企業戦略、業績、買収・売却戦略、取締役会の議題、経営幹部の実績、重要なESG課題など多岐に亘り、会社経営陣が公に株主と共有できる範囲で、幅広い議論を行っています。

また、FTはエンゲージメント活動の一環として、ESG要因や企業活動に関して有益な洞察を得られると考える際には、業界団体、非政府組織（NGO）、学術機関、その他専門家と対話・連携しています。

ESGのエンゲージメント活動を積極化するタイミングや方法については、硬直的なガイドラインをそのまま適用するのではなく、各社の状況を個別に評価した上で判断しています。FTの運用担当者は自らの裁量により、各社の状況において、最適で効果的なエンゲージメント活動の方法を選択します。このように、各運用チームに所属するアナリスト、ポートフォリオ・マネージャー、リサーチ部門のヘッド、最高投資責任者(CIO)が協働し、個別の状況に応じた最善の方法を状況に応じて判断しています。通常、主な当事者との建設的・直接的な協議が、訴訟を行うよりも効果的であると考えていますが、株主利益を保護するために適切かつ必要との判断のもと、訴訟を提起したこともあります。

なお、FTはポートフォリオの組み入れ銘柄を含む企業とのエンゲージメント活動の内容について、開示を控えています。

iii.エンゲージメント活動における協働

FTの各運用グループは、個別に投資判断を提供しています。ただし、複数の運用グループ間で懸念事項や見解が共通する場合、それぞれの専門性を活かし、協働してエンゲージメント活動を行う場合があります。

また、エンゲージメント活動において、他の機関投資家と連携することがお客様の利益に繋がり、FTの方針に則したものであり、関係法令等においても許容されると考えられる場合、連携した対応を行う場合があります。

2.リサーチと情報源

ファンダメンタルズを重視するFTでは、リサーチは主に社内の運用プロフェッショナルによって行われています。アナリストの情報源は、投資先企業、債券発行体、政府機関、政府関係者、ESGを含む専門調査会社、国際機関、シンクタンク、NGO、各種文献、政府の研究結果、ブローカーの調査、現在・過去のニュース、企業・業界・国の統計やトレンドなど、多岐にわたります。

3.ガバナンス

ESGチームのヘッドとフランクリン・リソース・エグゼクティブ・コミッティーが、ESGプログラムを監督し、FTの責任投資方針・原則を承認します。専任のESGチームは、FTの責任投資方針・原則を管理し、必要に応じて同方針・原則を精査し、ESGアプローチを強化します。

ESGチームは以下の役割を担う専任のESG専門家で構成されています。

- ポートフォリオ運用チームに対し、ESG課題が与える影響に関する認識・理解へのサポートを行うと同時に、新たに発生したESG課題に関する助言も提供する。
- 現在のESG関連の調査実施状況を評価し、改善の機会を特定する。
- 独立した、偏りのないESGのデータ、調査、分析結果などを取り入れることで、運用チームのESG分析能力を強化する。

4.メンバーシップおよび加盟機関

FTは以下の署名機関、支援機関、またはメンバーとなっています。

- 責任投資原則（PRI）
- 国際コーポレート・ガバナンス・ネットワーク（ICGN）
- 英国社会的責任投資フォーラム(UKSIF)
- 欧州社会的責任投資フォーラム(Eurosif)
- 責任投資協会（RIA）
- グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク(GRESB)
- 米国サステナビリティ会計基準審議会（SASB）アライアンス
- ペンションズ・フォー・パーパス
- 公益社団法人会社役員育成機構

FTは、英国スチュワードシップ・コードに加え、各国のスチュワードシップ・コードに署名しています。これはFTが、受託者責任の一部として、積極的にエンゲージメント活動を行う運用会社であり、かつESG要因を考慮する取り組みを行っていることを再確認するものです。

5.社会的責任投資（SRI）

FTの責任投資方針・原則は、ESGと社会的責任投資（SRI）を明確に区別しています。SRIは、経済的なリターンと倫理的な目標の両方を考慮する投資哲学です。SRIにおいては、ESG要因が考慮される場合がありますが、SRIはスクリーニング（ネガティブ・ポジティブ）に基づき、宗教、倫理、文化的な観点から好ましくない影響を及ぼす銘柄（例：アルコール）を投資先から外し、好ましい影響を及ぼす銘柄（例：代替エネルギー）に投資する手法です。

SRIにおける優先項目は、投資家によって異なるため、FTでは個別のお客様のSRIの方針を合同ファンドに適用することはできません。一方で、個別口座においては、お客様毎のSRIの方針に基づき、投資基準に合わせた運用サービスを提供することが可能です。その際には、お客様の制約基準で実際の運用が可能か、といった点に加え、当該基準がポートフォリオのパフォーマンスやリスク特性に及ぼす潜在的な影響の評価も行います。

6.テーマ型投資

投資家は、気候変動、持続可能な水資源管理といったESG課題に対応している発行体や、ESGの流れからの恩恵が見込まれる発行体に投資することで、ESG問題に取り組むことができます。FTはお客様のESG戦略に合わせた運用ソリューションを提供することが可能です。一部の地域では、気候変動のテーマに特化したファンドを提供しています。

7.インパクト投資

インパクト投資は、経済的なリターンに加え、社会や環境に特定の成果をもたらすことを目的として、企業、資産、ファンドなどに投資する手法です。FTIは、お客様の目標に沿った運用ソリューションを提供することが可能です。専任のESGチームに加えて、リアル・アセット運用チームにおいてインパクト投資の評価を行う（インパクト投資）責任者を任命しています。

8.武器製造企業への投資除外

FTは武器製造禁止を求める協定を支援・支持します。「武器製造企業を投資対象から除外する方針（Controversial Weapon's Policy）」に記載の通り、FTが武器製造企業であると考えられる発行体の債券・株式への投資は行いません。

9.関連文書

責任投資に関する以下の情報は、該当する国および地域のホームページを参照ください：

- 議決権の行使について（Proxy voting policies）
- 武器製造企業を投資対象から除外する方針（Controversial Weapons Policy）
- スチュワードシップ責任を果たすための方針（Regional Stewardship Code Statements）
- PRI透明性レポート（PRI Transparency Report）

<当資料のお取扱いにおけるご注意>

- 当資料は説明資料としてフランクリン・templton（フランクリン・templton・リソース・インクとその傘下の関連会社を含みます。）（以後：FT）が作成した資料をフランクリン・templton・ジャパン株式会社が翻訳した資料です。
- 当資料は、FTが各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。
- 当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている運用スタンス、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。
- この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利はFTに帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。
- 当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。
- フランクリン・templton・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

フランクリン・templton・ジャパン

商号：フランクリン・templton・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号
加入協会： 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

